株主の皆様へ

第77期　事業報告

2022年12月1日 ～ 2023年11月30日

77

見えないけれど、
あなたのそばに

大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

https://www.ooc.co.jp/ 東証プライム:4187

株主の皆様へ

代表取締役社長　安藤　昌幸

CONTENTS

01　株主の皆様へ
03　中期経営計画
05　トピックス
07　連結財務ハイライト
　連結損益計算書
　連結貸借対照表
08　事業分野別売上高の構成（連結）
09　会社概要
10　株式の状況
11　株主メモ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

本年１月の能登半島地震により被災されました皆様には心からお見舞い申しあげますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の５類感染症への移行などに伴い、経済活動が徐々に正常化へ向かい、景気は緩やかな回復傾向が続いております。しかしながら、中国経済の停滞や原材料・エネルギー価格の高騰などによる物価高、地政学的リスクの高まりなどにより、依然として不透明な状況が続くと考えられます。

このような状況の下で当社グループは、2020年11月期よりスタートした、長期経営計画「Next Stage 10」の後半となる、第２次５ヶ年中期経営計画を推進し、各種施策に取り組んでまいりました。化成品事業におきましては、選択と集中による製品の新陳代謝を図り、採算性の向上に努めるとともに、グローバルに市場が拡大するUVインクジェットプリンター向け特殊インク用原料やバイオマス由来などの環境に配慮した製品の拡販に注力いたしました。電子材料事業におきましては、次世代半導体材料開発の強化及び新規ディスプレイ材料の拡販に努めてまいりました。機能化学品事業におきましては、機能性ポリマーの開発を促進するとともに、化粧品原料や高純度特殊溶剤の拡販に取り組んでまいりました。しかしながら、ディスプレイや半導体などの電子材料用途を中心に需要の低迷の影響を大きく受けました。

この結果、当連結会計年度の売上高は289億７百万円（対前年同期比10.3％減）、営業利益は35億７千７百万円（対前年同期比39.7％減）、経常利益は38億７千７百万円（対前年同期比39.1％減）、親会社株主に帰属する当期純利益は32億７千万円（対前年同期比30.8％減）となりました。

当期（2023年11月期）の配当につきましては、基本方針に基づき第２四半期の配当を28円とさせていただきました。期末の配当につきましても、当初予定どおり28円（年間配当56円）とさせていただきます。

また、次期（2024年11月期）の配当につきましては、業績予想に鑑み１株当たり年間58円（第２四半期29円、期末29円）を予定しております。

今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年２月

代表取締役社長　安藤　昌幸

財務ハイライト

売上高
28,907 百万円
前年同期比 10.3% 減

営業利益
3,577 百万円
前年同期比 39.7% 減

経常利益
3,877 百万円
前年同期比 39.1% 減

親会社株主に帰属する当期純利益
3,270 百万円
前年同期比 30.8% 減

中期経営計画について

◆前中期経営計画「Next Stage 10」振り返り

「Next Stage 10」(NS-10：2015年～2024年) の目標値が2022年度に達成された事に加え、会計基準の変更(収益認識基準の適用)があった事から、中期経営計画の見直しが必要と考え、NS-10を1年前倒しで終了することにいたしました。

【財務実績】
- 売上高 / 利益の大幅拡大を達成
  目標：売上高　370億円以上　営業利益　50億円以上
  実績：売上高　374億円　営業利益　59億円 (2022年度)
- 半導体事業が主力事業へ成長
- 大型設備投資を実現(累積160億円)

【非財務実績】
- CO_2排出量の削減
  CO_2排出量削減率 (2013年度比)
  12.0% (2022年度)
- 教育プログラムの強化
- 人事制度の見直し

【課　題】
- 事業重点領域の拡充
- 技術の戦略的な深堀
- 海外市場への展開
- 環境へ向けた取組み
- DXの推進
- 人的資本経営

新中期経営計画を策定

◆新中期経営計画

Progress & Development 2030
(P&D 2030)

Stage 1 (2024年～2026年)	Stage 2 (2027年～2030年)
●NS-10の計画から成果を得る。 ●Stage2 へ向けた計画、育成を行う。	●Stage1の計画から成果を得る。 ●次期中計への成果へ向けた計画、育成を行う。 ●NS-10、P&D2030で育てた新事業を拡大する。

	2023年11月期 実績	2026年11月期 Stage1 目標	2030年11月期 Stage2 目標
売上高	289億円	400億円以上	500億円以上
営業利益	35億円	56億円以上	75億円以上
営業利益率	12.4%	14%以上	15%以上
戦略投資・事業投資	ー	累積 300 億円以上	
ROE	7.8%	10%以上	12%以上
ROIC	5.4%	8%以上	9%以上
配当性向	36.6%	40%目安	

ありたい姿と中期経営計画の位置づけ

経営理念
わたしたちは、一人ひとりの個性を大切にし、ユニークな機能を備えた材料を提供することにより、お客様と共に社会の発展に貢献します

経営ビジョン
特殊アクリル酸エステルのリーディングカンパニーとして、グローバル市場に価値を提供する

中期経営計画

Progress & Development 2030

基本戦略

事業領域
- 重点領域の拡充
- 環境社会へ向けた材料
- 海外戦略の強化

非事業領域
- 環境社会への貢献
- IT、DXの推進
- 人的資本経営に向けて
- リスクマネジメントの強化

行動指針(抜粋)
わたしたちは、約束を守り、誠実に謙虚に向き合います
わたしたちは、お互いの良さを活かし、補い合い、チームで最大限の力を発揮します
わたしたちは、お客様のイノベーションに繋がるユニークな機能を備えた材料を提供し続けます
わたしたちは、安全を最優先し、無事故・無災害を目指します

キャッチフレーズ
見えないけれど、あなたのそばに

バイオマスアクリレートの拡販

持続可能な開発目標（SDGs）に向けた活動として、**植物由来原料**を使用した特殊アクリル酸エステルの開発・拡販に注力しています。
2023年10月4日～6日に幕張メッセで開催された「**サステナブルマテリアル展**」に出展し、バイオマスアクリレートをご紹介しました。

会場には 3 日間合計で延べ4万3千人の来場者があり、当社ブースでも多くのお客様に紹介することができました。
サンプルの引き合いも多数いただき注目の高さを実感しました。

化粧品原料の海外拡販

化粧品原料は、**海外への販路**を広げ拡販を進めています。
2023年度は日本をはじめ、インド・中国・米国・タイの展示会にも出展させていただきました。

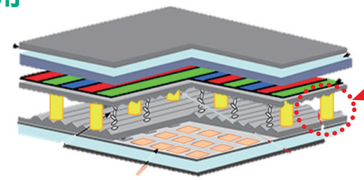
2023 年度　参加展示会

	展示会	国
5月	CITE JAPAN 2023	日本
7月	Cosmohome Tech Expo 2023	インド
7月	PCT 2023 (学会)	中国
10月	CaliSCC Suppliers' Day 2023	北米
11月	in-cosmetics Asia 2023	タイ

【中国では商品紹介のセミナーも実施しました】

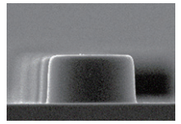
ディスプレイ技術の用途展開

当社が液晶ディスプレイやタッチパネル材料で培ってきた**フォトレジスト技術**を、他の材料に活かすべく、顧客と連携して新たな用途展開を進めています。

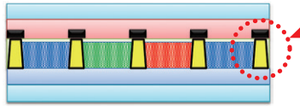
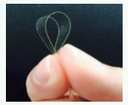


液晶パネル断面

フォトスペーサー



【電子顕微鏡写真】

用　途	材　料	図・イメージ
マイクロLED	・厚膜垂直形成可能な隔壁材 ・電極用バンプ形成材 など	 **隔壁材へ展開** 【電子顕微鏡写真】
QD-OLED	・隔壁用バンク材 ・QDレジスト、ポリマー など	
VR/AR/MR グラス	・超薄膜超高精細スペーサー ・ホログラフィック光学素子用位相差材、光学材	VRゴーグル（イメージ）
フレキシブル ディスプレイ	・配線保護材 ・低温焼成対応スペーサー (省エネプロセス対応) など	フレキシブル ディスプレイ 

IR情報メール配信サービスのお知らせ

決算発表やニュースリリースなどの情報をメールで配信するサービスを実施しております。
当社ホームページのIRサイト（https://www.ooc.co.jp/ir/）からご登録できますので、よろしくおねがいいたします。

企業と投資家をツナグ MUFG 三菱UFJ信託銀行 IR情報 メール配信 RIMSNET 配信のご登録はこちら
＊こちらのバナーからご登録下さい。

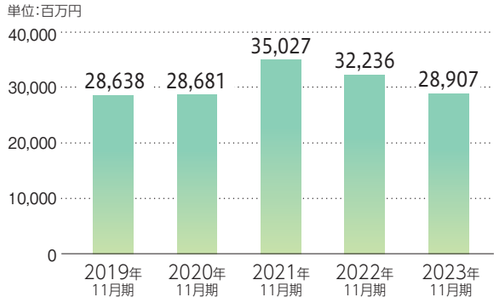
連結損益計算書 (単位：百万円)

科目	前　期 自2021年12月 1日 至2022年11月30日	当　期 自2022年12月 1日 至2023年11月30日
売上高	32,236	28,907
売上原価	21,947	20,947
売上総利益	10,289	7,959
販売費及び一般管理費	4,354	4,382
営業利益	5,934	3,577
経常利益	6,365	3,877
税金等調整前当期純利益	6,809	4,455
当期純利益	4,825	3,360
親会社株主に帰属する当期純利益	4,725	3,270

連結貸借対照表 (単位：百万円)

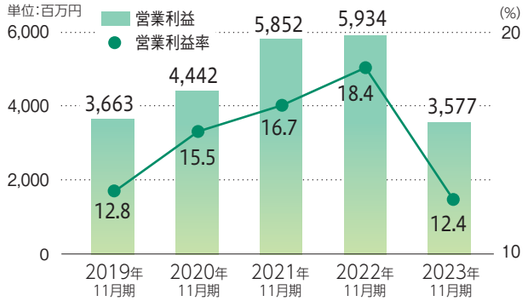
科目	前　期 2022年11月30日	当　期 2023年11月30日
資産の部		
流　動　資　産	28,082	27,101
固　定　資　産	24,754	27,534
資　産　合　計	52,836	54,636
負債の部		
流　動　負　債	9,169	7,098
固　定　負　債	2,272	3,909
負　債　合　計	11,442	11,007
純資産の部		
株　主　資　本	38,852	40,356
その他の包括利益累計額	1,974	2,627
非支配株主持分	568	645
純資産合計	41,394	43,629
負債純資産合計	52,836	54,636

売上高



＊2022 年 11 月期から「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。

営業利益・営業利益率



配　当

単位：円/株

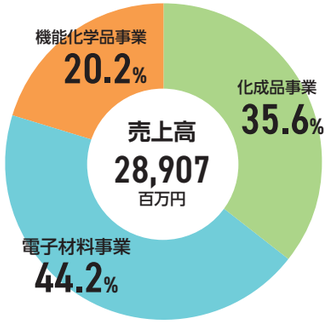
	中 間	期 末	年間配当
2019年11月期	18	22	40
2020年11月期	23	23	46
2021年11月期	25	25	50
2022年11月期	27	27	54
2023年11月期	28	28	56

売上高の構成

ヘアースタイリング剤

液晶テレビ

半導体



自動車塗料

インキ・粘接着剤

連結経営成績 ＊セグメント間取引を含んでおりません。

化成品事業

主要製品：● 塗料用原料　● インキ用樹脂原料　● 粘接着剤原料

売上高 **10,301** 百万円

化成品事業におきましては、アクリル酸エステルグループは、自動車生産の回復に伴い、自動車用塗料向けの販売が堅調に推移いたしました。一方で、ディスプレイ用粘着剤向けやUVインクジェット用インク向けの販売が減少いたしました。メタクリル酸エステルグループは、販売が大幅に減少いたしました。この結果、売上高は103億1百万円（対前年同期比6.7％減）、セグメント利益は9億4千7百万円（対前年同期比16.5％増）となりました。

電子材料事業

主要製品：● 表示材料関連　● 半導体材料関連

売上高 **12,777** 百万円

電子材料事業におきましては、半導体材料グループは、最先端のEUVレジスト用原料は好調に推移いたしました。しかしながら、主力であるArFレジスト用原料は、末端市場の需要減少による在庫調整の長期化のため、販売が低調に推移し、グループ全体の売上高は減少いたしました。表示材料グループは、ディスプレイの需要の低迷により販売が低調に推移いたしました。この結果、売上高は127億7千7百万円（対前年同期比16.1％減）、セグメント利益は16億6千3百万円（対前年同期比56.2％減）となりました。

機能化学品事業

主要製品：● 化粧品基材　● 特殊溶剤、その他

売上高 **5,828** 百万円

機能化学品事業におきましては、化粧品原料グループは、販売が海外で好調に推移いたしました。機能材料グループは、受託品の販売が低調に推移いたしました。子会社の高純度特殊溶剤の販売は堅調に推移いたしました。この結果、売上高は58億2千8百万円（対前年同期比2.5％減）、セグメント利益は9億7千3百万円（対前年同期比25.1％減）となりました。

会社概要(2023年11月30日現在)

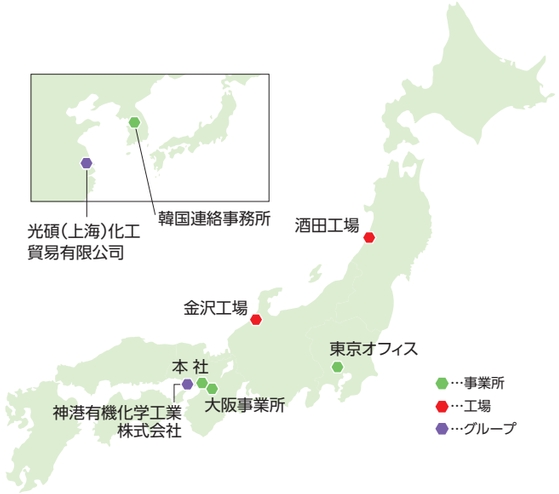
商号	大阪有機化学工業株式会社
設立	1946年12月21日
資本金	3,600,295,546円
従業員数	461名(連結)
主な事業内容	各種エステル化製品、有機合成品、特殊化学品等の製造及び販売

本社

東京オフィス

本社及び事業所

本社	大阪市中央区安土町一丁目8番15号 TEL.06(6264)5071
東京オフィス	東京都中央区日本橋本町1丁目7番2号 TEL.03(6202)7051
金沢工場	石川県白山市松本町1600-1 TEL.076(276)6261
酒田工場	山形県飽海郡遊佐町藤崎字茂り松157番23 TEL.0234(71)5721
大阪事業所	大阪府柏原市片山町18番8号 TEL.072(978)6261
韓国連絡事務所	ソウル特別市衿川区デジタル路9ギル99 TEL. +82-10-5081-1757



子会社

		〈中国〉	
会社名	神港有機化学工業株式会社	会社名	光碩(上海)化工貿易有限公司
住所	神戸市東灘区住吉浜町18番地の26	住所	上海市長寧区延安西路2299号2801室
資本金	55,000千円	資本金	210,000千円
従業員数	51名	従業員数	6名
事業内容	酢酸エステル等の製造販売	事業内容	有機化学薬品関連商材の貿易・販売等

役員(2024年2月28日現在)

取締役および監査役	
代表取締役社長	安藤 昌幸
取締役	本田 宗一 (注)1
取締役	小笠原 元見 (注)2
取締役	渡辺 哲也
社外取締役	濵中 孝之
社外取締役	榎本 直樹
取締役(監査等委員)	永柳 宗美
社外取締役(監査等委員)	吉田 恭子
社外取締役(監査等委員)	高瀬 朋子

(注) 1.本田宗一は神港有機化学工業株式会社取締役を兼務しております。
2.小笠原元見は、光碩(上海)化工貿易有限公司董事長を兼務しております。

執行役員		
常務執行役員	生産本部長 兼金沢工場長	榮村 茂二
*執行役員	管理本部長	本田 宗一
*執行役員	事業本部長 兼海外事業部長	小笠原 元見
*執行役員	経営企画本部長 品質保証室管掌	渡辺 哲也
執行役員	技術本部長	徳田 雄介
執行役員	事業開発室長	鎮目 清明
執行役員	生産本部 酒田工場長 兼製造部長	秋田 秀一

(注)*を付した執行役員は、取締役を兼務しております。

会計監査人(2024年2月28日現在)

会計監査人 有限責任監査法人トーマツ

株式の状況(2023年11月30日現在)

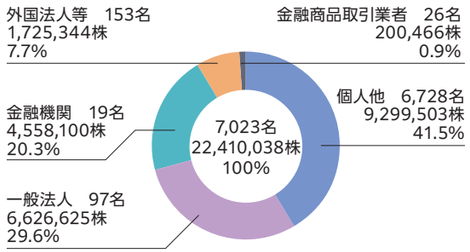
発行済株式総数	22,410,038株
議決権総数	212,538個
株主数	7,023名

大株主

株主名	当社への出資の状況 持株数	当社への出資の状況 出資比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,371千株	11.15%
WesternRedCedar株式会社	1,110	5.22
株式会社日本カストディ銀行	837	3.94
JSR株式会社	700	3.29
安川 義孝	671	3.16
大阪有機化学従業員持株会	630	2.96
三菱ケミカル株式会社	587	2.76
東亜合成株式会社	521	2.45
谷川 由生子	426	2.01
東京応化工業株式会社	426	2.00

(当社は自己株式を1,142,585株保有していますが、上記大株主からは除いております。)
※出資比率は、発行済株式の総数から自己株式(1,142,585株)を控除して算出しております。

株式構成



株主メモ

株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
定時株主総会	毎年2月
基準日	
定時株主総会関係	毎年11月30日
期末配当金受領株主確定日	毎年11月30日
中間配当金受領株主確定日	毎年5月31日
公告の方法	電子公告 https://www.ooc.co.jp/ （ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）
株主名簿管理人	三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 同連絡先	三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-0044 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 電話　0120-094-777（通話料無料）
同取次所	三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社　全国本支店
単元株式数	100株

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続につきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式事務手続き

特別口座に口座をお持ちの株主様 ・特別口座から一般口座への振替請求 ・単元未満株式の買取（買増）請求 ・住所・氏名等のご変更 ・特別口座の残高照会 ・配当金の受領方法の指定 ・郵便物等の発送と返戻に関するご照会 ・支払期間経過後の配当金に関するご照会 ・株式事務に関する一般的なお問合せ	各種のお手続き、ご照会は特別口座管理機関および株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社　大阪証券代行部へお問合せください。
証券会社等に口座をお持ちの株主様のお手続き	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

ホームページアドレス　https://www.ooc.co.jp/

UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

FSC www.fsc.org
ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C016722